

2019年10月実績概要（メモ）

（2019.11.21）

エチレンの増産とともに誘導品の定修も終盤に差し掛かり、伸び率も高めの製品が多い。

1. 生産動向

イ) エチレン 559,200トン

前月比 +4.8% (+25,800トン)

前年同月比 +1.2% (+6,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+3.3%	-
定修要因等	-	+1.6%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	+1.5%	▲0.5%
生産増減率	+4.8%	+1.2%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.2% → 当月94.6% ← 前年同月95.0%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

本年1～10月の累計生産量 5,301.9千トン、前年同期比+5.3%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加や定修規模差等からLD、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ANなどの11品目がプラス。HD、SBR、BR、ベンゼンなどの6品目は、定修規模差や稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差や稼働率要因からLD、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBRなどの10品目がプラス。HD、EO、ベンゼン、トルエンなどの7品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、LDは日数増加と定修系列数の減少等から大幅なプラス、PP、PSは主に日数増加からプラスとなった。HDは定修系列数の増加等に伴いマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模の差からLD、PP、PSはプラス、HDはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、ユーザー側の稼働日数の増加もあり、LD、PP、PSでプラスとなった。このうち、LDではほとんどの出荷分野で数量が増加したほか、PPでは射出成形分野の出荷が当月は減少となったのに代って、フィルム分野、押出成形分野の出荷が増加した。また、PSは包装分野、FS分野での出荷の増加が見られた。

前年比では、LD、HD、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。PEではフィルム分野をはじめとし、総じて出荷量が減少した。PPでは射出成形分野、フィルム分野等の出荷が減少し、昨年の11月以来の前年割れとなった。また、PSはFS分野の出荷量の減少がやや大きくマイナスとなった。

ハ) 輸出

LD、HD、PPは1万トン前後の輸出量となり、前月比ではHD、PPがプラスとなった。

前年比は、ポリオレフィン3樹脂では前年の輸出がやや低調であったこともありプラス。PSはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HDで増加、PP、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDで上昇、PP、PSは低下した。在庫水準としては、LD、HDは高め、PPはややタイト、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LD	+6,300	3.6	3.7
HD	+400	3.6	3.7
PP	▲8,600	3.0	2.8
PS	▲2,300	1.7	1.6

以上